

ガス業における死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
1999	3	0 ～ 1	個人住宅の庭を掘削していて、ガス管を破損させたのでガス管理会社へ依頼し、補修作業をしていたがその途中で倒れているのを、昼食から現場に戻った水道工事業者が発見した。	514	12	1～ 9
2000	1	0 ～ 1	公共下水道工事中にガス臭がするとの通報を受け、現場で腐食漏れ箇所の復旧工事を狭隘なスペースで行っていたが作業がスムーズに進まなかったため、溜まってきたプロパンガスを吸引し酸素欠乏症になった。	514	12	50 ～ 99
2001	6	11 ～ 12	ガスボンベの検査場でボンベのバルブを取り外す作業中に、何らかの原因でガスに引火し火災が発生し、1名が死亡し2名が火傷を負った。	513	16	1～ 9
2006	9	15 ～ 16	被災者は、公共下水道工事においてマンホールの設置の際に邪魔になる、宅内引込みのプロパンガス用のガス管を切断して迂回させる作業を1人で行っていた。迂回させるために切断したガス管にはプロパンガスが供給された状態であったため、切断したガス管にコーキングテープを巻きつけてプロパンガスを仮止めして作業をしていたが、仮止めした箇所からプロパンガスが掘削穴内に溜まり、酸欠空気を吸い込んだ。	514	12	1～ 9
2010	7	7 ～ 8	被災者は、ガス充てん作業所内でハトを駆除するため、高さ約5mの所にある足場板で組まれた作業床上で、天井部付近に有刺鉄線を取り付ける作業を行っていたところ、何らかの原因で足場板から墜落して、頭部と胸を負傷した。直ちに病院へ搬送され、緊急手術を受け危篤状態でICUで経	417	1	1～ 9

			過を診ていたが、4日後に死亡した。			
2012	3	14 ～ 15	営業のため軽ワゴン車で市道（片道1車線）を走行中、緩い左カーブに差し掛かった際対向車線へはみ出し、対向してきた大型タンクローリーと正面衝突した。	231	17	1～ 9
2015	8	14 ～ 15	被災者は、木造家屋の解体工事現場において、敷地内に埋設された供給用のガス（プロパン）管の閉止作業のため、ガスを露出させるために掘削した深さ1m程の穴の中に入り、ガスを切断して閉止作業を行っていたが、穴の中で意識を失った状態で倒れていたところを発見された。その後、病院に搬送されたが、約1時間後に低酸素血症により死亡した。	714	12	300 ～ 499

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_03.htmlに戻る。